この資料は審査会用に作成したものです。審査の過程で変更されることがありますので、取扱いにご注意願います。

事業者資料

（仮称）小柴貯油施設跡地公園整備計画

環境影響評価方法書に関する補足資料

１　「つながりの森」、「連続性に配慮した環境整備」、「歴史と景観のつながり」について　・・・・　1

２　計画地の土地利用の履歴について　・・・・　2

３　方法書対象地内における計画地外の井戸の有無について　・・・・　4

平成２７年１月２７日
横浜市

この資料は審査会用に作成したものです。審査の過程で変更されることがありますので、取扱いにご注意願います。

１　「つながりの森」、「連続性に配慮した環境整備」、「歴史と景観のつながり」について

「つながりの森」構想は、生物多様性基本法に基づく地域戦略として横浜市が策定した「ヨコハマｂプラン」の中で掲げた重点推進施策の一つです。「つながりの森」構想　概要版を添付します。（別紙）

平成 26 年 7 月に策定した「（仮称）小柴貯油施設跡地公園基本計画」で公園整備の考え方を定めています。

その考え方に基づき、方法書の 6 ページに記載の通り「連続性に配慮した環境整備」については、生物多様性に配慮し、生物の生息・生育環境を保全・再生・創出するため、周辺環境との連続性に配慮した環境を整備します。

また、「歴史と景観のつながり」については、金沢の旧海岸線の景観と横浜最大級の森である円海山へとつながる緑の景観を有しています。そのため、市内でも独自の魅力的な景観を保全しつつ、市民が歴史と景観を体感できる場を整備します。

この資料は審査会用に作成したものです。審査の過程で変更されることがありますので、取扱いにご注意願います。

２　計画地の土地利用の履歴について

平成 19 年度に行われた土壌汚染及び水質汚染についての蓋然性を把握するために行われた調査の報告書「旧小柴貯油施設資料等調査報告書」（防衛省南関東防衛局）からの抜粋を下に引用します。

旧日本軍の施設として運用されていた昭和 23 年まで（(2)貯油施設建設時代）と、昭和 23 年に米軍によって接収されてから平成 17 年に返還されるまで（(3)貯油施設運用時代）を比較すると、地形の改変が数か所で行われており、建築物が新たに建築されていますが、タンクについては新たな築造はなく、施設の使われ方に大きな変更はなかったと推察されます。

「旧小柴貯油施設資料等調査報告書」引用

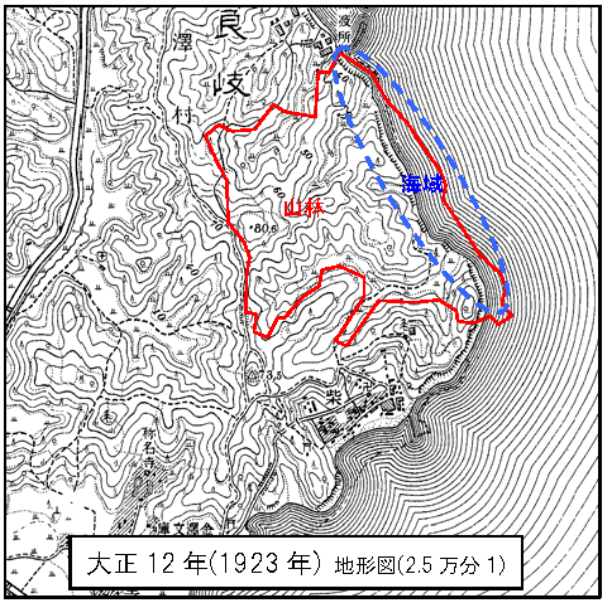
地図調査結果より対象地の土地の遍歴は、未利用地時代、貯油施設建設時代及び同施設運用時代の 3 つに分けられる。詳細は以下のとおりである。

(1)未利用地時代

・時期　大正時代から昭和初期（概ね昭和 11 年頃）

・確認事項　・対象地内の東は海域である。

・土地用途は山林、水田、海域である。



大正 12 年(1923 年) 地形図(2.5 万分 1)

この地図は、国土地理院発行の 1 万分 1 地形図、2 万 5 千分 1 地形図、同院撮影の空中写真及び米軍撮影の空中写真を複製し、測量法第 29 条に基づく複製承認「平 20 関複、第 35 号」を転載したものである。

この資料は審査会用に作成したものです。審査の過程で変更されることがありますので、取扱いにご注意願います。

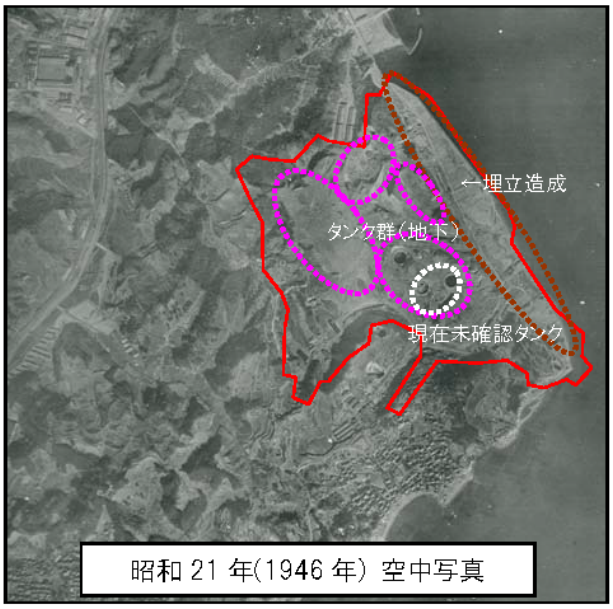
(2)貯油施設建設時代

・時期 昭和初期(概ね昭和 11 年頃から昭和 21 年頃まで。ただし、他の情報を考慮すると主な貯油施設は昭和 9 年から昭和 12 年頃までの間に集中的に建設されたと考えられる)

・確認事項 ・東側の海域が埋立て造成される

・敷地全体に地下タンクの存在が確認できる

・敷地中央南部に現在では確認されていない地下式タンクが昭和 21 年から昭和 52 年頃まで 3 基確認できる。



昭和 21 年(1946 年) 空中写真

(3)貯油施設運用時代

・時期 昭和初期(概ね昭和 11 年頃から昭和 21 年頃まで)から平成 17 年返還まで

・確認事項 ・昭和 22 年以降、敷地南東に建屋群が確認されるが用途を確認することは困難である。

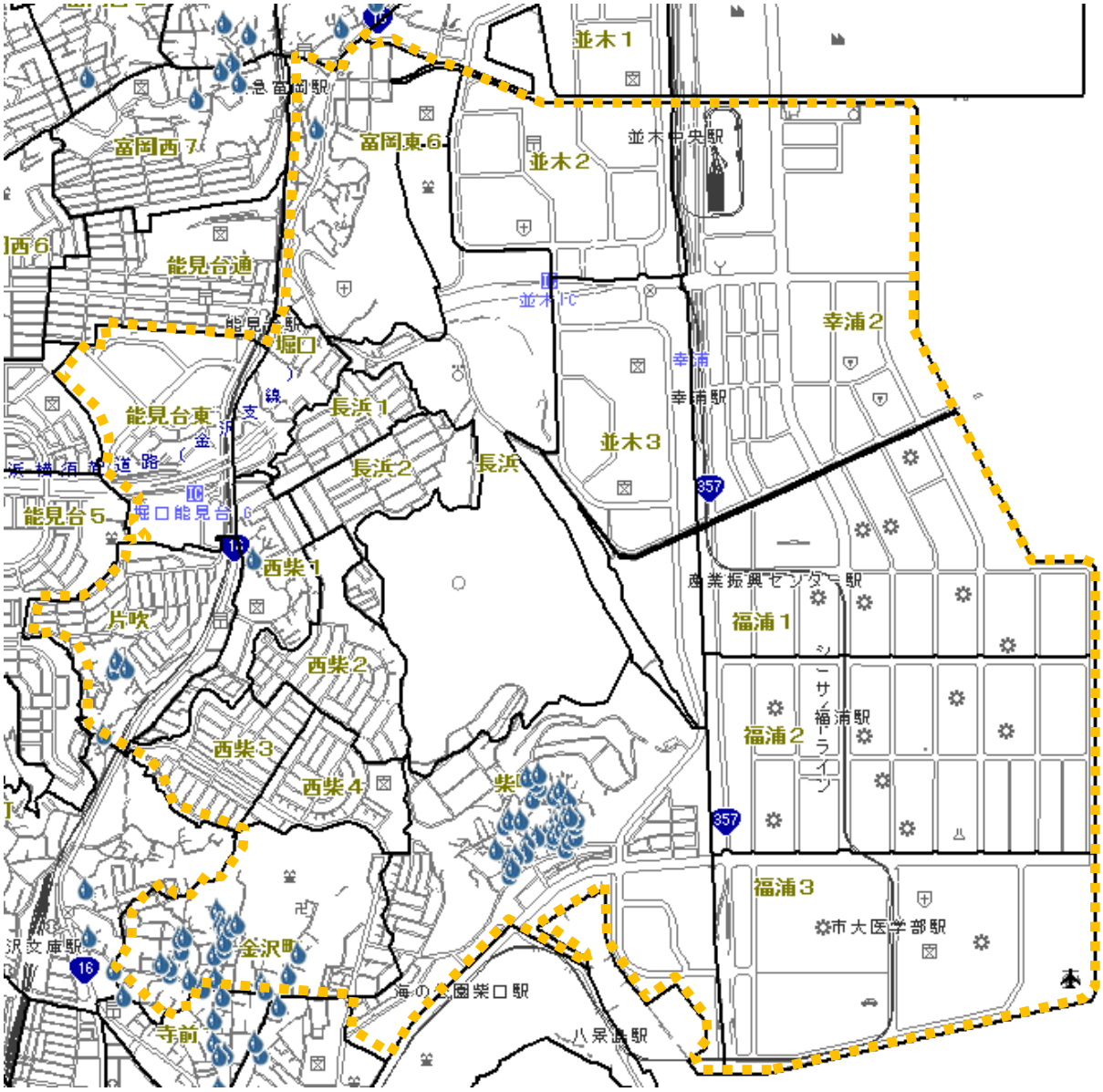
・昭和 58 年頃、1 つの地下タンクが露出する。

・昭和 63 年頃、敷地の 3 地域で土地の改変が行われている。

昭和 63 年(1988 年) 空中写真

この資料は審査会用に作成したものです。審査の過程で変更されることがありますので、取扱いにご注意願います。

３　方法書対象地内における計画地外の井戸の有無について



災害用井戸協力の家

方法書対象地域

横浜市では、井戸所有者に御協力いただき、地震等災害時に地域の方々に洗浄水などの生活用水として活用していただける井戸を災害応急用井戸に指定しています。その所在地をこの地図に示しています。

（ 別紙 ）

横浜「つながりの森」構想

【概要版】

本構想は、「ヨコハマｂプラン（生物多様性横浜行動計画）」に位置づけられています。これまでの様々な取組、環境特性を生かし、基本方針としてまとめた、「横浜つながりの森」を市民全体で守り、育てていくアクションプランです。

目指すべき将来像

横浜の生物多様性の宝庫である「横浜つながりの森」を市民全体で、体感・感動し、次代、次々代につないでいく。

【将来イメージ】

- 水辺や緑地が保全され、良好に維持されています。
- 生き物の生息・生育環境のつながりである、エコロジカルネットワーク（※）が形成され、 生物多様性の保全・再生が推進されています。
- 子どもたちを中心とした市民の、水・緑や生き物に触れる機会が増え、自然が身近になっています。
- 子どもたちや、活動団体、市民、企業などが連携し、生物多様性の保全や環境教育・環境学習など、 様々な取組が活発に行われています。

取組の基本方針

「横浜つながりの森」において、「保全と活用のバランス」を保ちながら、「横浜つながりの森」構想の目指すべき将来像を実現するため「生き物の多様性を大切にする」と「自然を楽しむ」を２つの柱として、取組を進めます。

生き物の多様性を大切にする

「生物多様性」の視点から水・緑環境づくりにおける基本的な考え方を示している「横浜市生物多様性保全再生指針」に基づき、生物多様性の保全・再生を目指すとともに、横浜市水と緑の基本計画や横浜みどりアップ計画（新規・拡充施策）の推進に合わせ、水・緑や生き物の生息・生育環境の保全などの取組を進めます。

自然を楽しむ

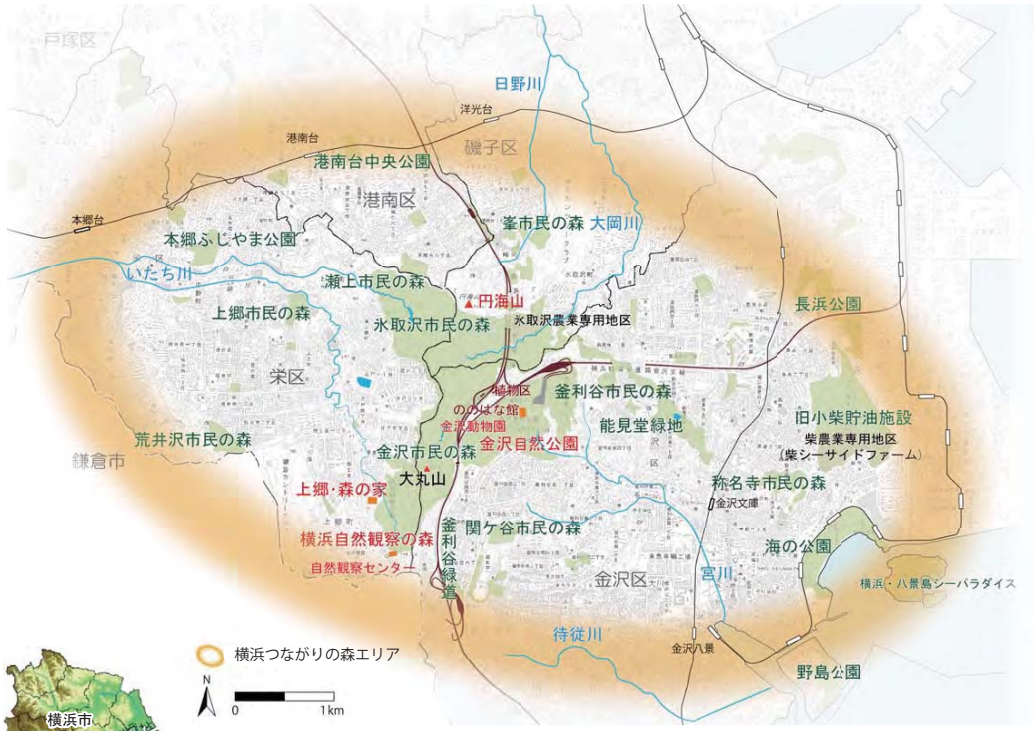
次代を担う子どもたちが、「横浜つながりの森」を訪れ、生き物のつながり、生き物の恵みを「感じ」「学び」さらには、「支える」人材となり、「横浜つながりの森」全体を「発信し」次代につなぐ流れをつくるための取組を進めます。

「横浜つながりの森」構想における取組は、現在行われている活動や事業を強力に推進するとともに各活動や事業の連携により、保全と利用のバランスを保ちながら、相乗効果を高めていくことが重要です。

※エコロジカルネットワークとは、生き物の生息地と、その生息地どうしを結ぶ移動経路から構成される生態的なネットワークのことです。生息地どうしを移動経路のネットワークでつなげることにより、生態系の回復や生物多様性の保全を図ることが期待できます。

「横浜つながりの森」エリア

「横浜つながりの森」エリアでは、連続した自然資源が最も豊かである円海山周辺をコア区域、その周辺にある市民の森などの樹林地、農地や公園、河川などを関連区域として、各区域のつながり、人と人のつながり、人と生き物のつながり、人と区域のつながりなどを求めていくものとします。これら様々なつながりにより、ゆらぎのあるエリアであるため、境界線はありません。



横浜市南部の円海山周辺を中心とし、いたち川から小柴地区までを「横浜つながりの森」構想の対象エリアとします。

「横浜つながりの森」構想は、横浜市環境創造局ホームページ、市役所市民情報センター、区役所、図書館等で閲覧できます。

◆「横浜つながりの森」について　http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/mamoru/tayou/tsunagari/

◆横浜市における生物多様性の取組について　http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/mamoru/tayou/

◆よこはまエコアクションポータルサイト「エコポルト」　http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/kkjs/

OPEN YOKOHAMA

ハマが好き だから守ろう いのちのゆりかご 森 川 海

横浜市生物多様性キャッチフレーズ

●横浜市環境創造局政策課
〒231-0017　横浜市中区港町 1-1　TEL:045-671-2484　FAX:045-641-3490

平成 24 年 7 月発行

「横浜つながりの森」の取組

生き物の多様性を大切にする

水と緑を守る・育てる

特別緑地保全地区などの緑地保全制度に基づく緑地の指定を推進するとともに、市民の森制度などにより保全されている緑地や水辺において、生物多様性を保全し、より一層豊かにしていくため、保全管理計画の策定を推進し、計画に基づく管理を実施します。既存樹林や水辺などの豊かな自然環境のある公園においては、生物多様性に配慮した取組を推進します。

また、生き物の生息・生育環境を保全・創出するための川づくりを推進します。

瀬上池の生物多様性を守る

「横浜つながりの森」において最大の池であり、水辺と樹林地が一体となった良好な自然環境がある瀬上池について、歴史や自然環境、生き物について調査し、生物多様性に配慮した整備、維持管理を推進します。

水と緑をつくる・つなげる

樹林地などの緑地のまとまりと、河川や水路など水辺との連続性を確保し、これをつなげることにより、生き物の生息・生育環境が向上し、生物多様性の確保が期待できます。公共施設や住宅の庭など、身近な緑化を推進するとともに、池やビオトープなどの水辺のある環境の保全・創出を推進することで、水と緑のつながりを高め、より多様な生き物の生息・生育を目指します。

旧小柴貯油施設の活用

「森と海に抱かれた自然体験空間」をテーマに身近に自然が体験できる豊かな緑の空間、広域の住民が交流する空間の形成を目指します。

動植物の調査と生き物データバンク

生物多様性の保全のためには、定期的な調査をしていくことが重要です。陸域、水域の生き物調査を継続的に実施するとともに、市民協働による調査を実施し、市民や企業等多様な主体による調査を推進します。また、調査結果は、データバンクとして様々な施策に活用します。

外来生物の対策

生物多様性の危機の原因の一つである外来生物について、取組を推進します。緑地などの維持管理において、必要に応じて対策を実施し、また、外来生物について正しく理解してもらうために、普及啓発を推進します。

自然を楽しむ

体験フィールドの活性化～横浜の森プロモーション～

横浜自然観察の森（自然観察センター）、金沢自然公園（金沢動物園・ののはな館・植物区）、上郷・森の家を「横浜つながりの森」の拠点施設とし、それぞれの特徴を生かして、連携することにより、「横浜つながりの森」の利用を促進し、支えていく人を生み出す流れをつくります。また、各施設の機能強化を図るとともに、区や関連団体と連携し、横浜の森プロモーションによる魅力アップを推進します。

- 金沢自然公園（金沢動物園・ののはな館・植物区）
  多くの人々が訪れ、生物多様性等について楽しみながら学ぶことのできる環境学習の入門施設として、様々な展示やイベントを行います。
- 横浜自然観察の森（自然観察センター）
  観察会や体験型の環境学習プログラムを通じて、森で活動する人材と活動団体を育成し、「横浜つながりの森」全体で「感じる」、「学ぶ」、「支える」という活動につなげます。
- 上郷・森の家
  金沢自然公園や横浜自然観察の森と連携し、自然や文化の体験の場として、子ども・学校向けの宿泊体験プログラムを行います。また、市民団体の交流や発表の会場として活用します。

３つの施設が連携して、イベントや環境学習プログラムの実施を推進します。

「横浜つながりの森」エコツーリズムの推進

「横浜つながりの森」エコツーリズムでは、次代を担う子どもたちが、地域の自然環境や歴史文化を体験し、その大切さを感じ、学ぶことで、次代、次々代まで「横浜つながりの森」をつないでいくことを目指しています。環境教育・環境学習プログラム、自然体験などのエコツアーを通し、「横浜つながりの森」の魅力を伝え、価値を理解してもらうことで、環境の保全につなげます。

「エコ森プロジェクト」（金沢動物園再生基本計画）の推進

周辺の豊かな緑を生かした、「森とエコ」をテーマとする環境施策の展開拠点として、金沢動物園の再生を進める「エコ森プロジェクト」を推進し、「横浜つながりの森」におけるフィールドの入口としての役割を高めるとともに、「横浜つながりの森」全体の環境教育・環境学習の活性化につなげます。

人材の育成

「横浜つながりの森」を将来につなげていくためには、樹林地の保全管理を行うボランティアや、環境教育・環境学習の指導者など、多様な人材が必要です。学校での環境教育や拠点施設の連携、エコツアーの活用など様々な手法を通し、人材育成を推進します。

「横浜つながりの森」の調整機能の充実・体制の強化を推進

団体どうしや拠点施設の連携、情報の一元化を図るため、調整機能を充実させるとともに、「横浜つながりの森」における各取組を推進するための体制を強化します。